

平成 30 年度 京都市域地域医療構想調整会議

第 2 回 B ブロック 意見交換会

日 時：平成 31 年 1 月 28 日（月）14:00～16:00

場 所：京都府医師会館 310 会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

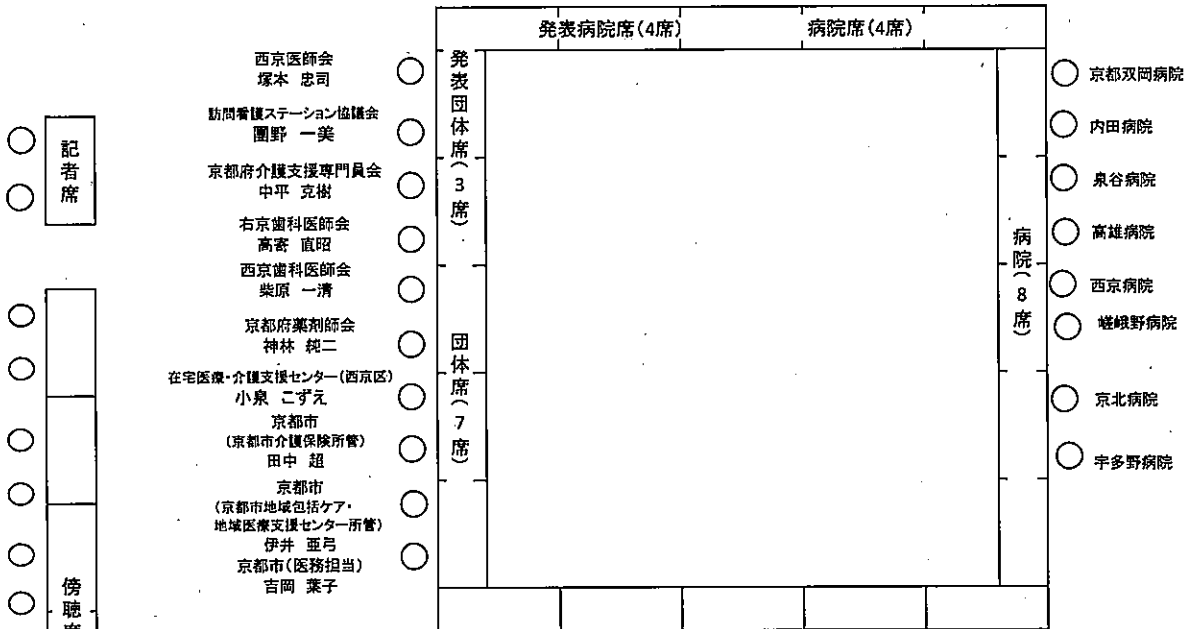
3 議事

- (1) 地域における医療機関の機能について（病院機能MAP）
- (2) 各病院から「病院の役割と今後について」発表
- (3) 各団体の在宅療養等に係る役割と今後期待すること

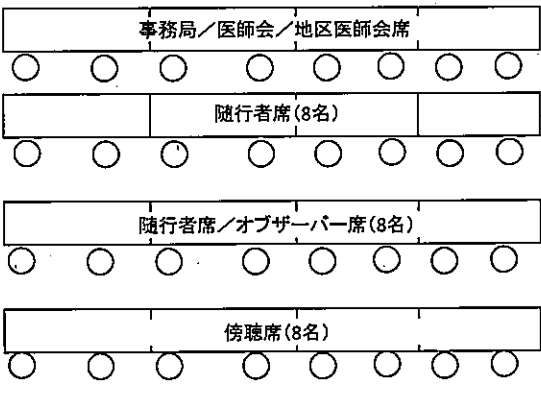
4 閉会

# 地域医療構想調整会議 Bブロック意見交換会

- 河端病院
- 三菱京都病院
- 洛西ニュータウン病院
- 京都民医連中央病院
- シミズ病院
- 西京都病院
- 洛西シミズ病院
- 京都桂病院



- 京都府 (高齢者支援課) 吉田 万里子
- 京都府(医療課) 井尻 訓生
- 京都府医師会 米林 功二
- 右京医師会 在宅医療・介護支援センター 伊藤 照明



## 【Bブロック】第2回ブロック会議発表資料

行政区	病院名	ページ番号
右京区	医療法人 河端病院	1 ~ 2
西京区	三菱京都病院	3 ~ 5
	医療法人清仁会 洛西ニュータウン病院	7 ~ 9
中京区	公益社団法人京都保健会 民医連中央病院	11 ~ 13

# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	医療法人 河端病院			
所在地	京都市右京区太秦上ノ段町 16			
許可病床数	50床 (一般病床)			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 50床 (0床)	医療療養 0床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 (上位3つ)	整形外科	内科	外科	
病床機能	高度急性期 0床	急性期 50床	回復期 0床	慢性期 0床
主な病院機能	救急告示病院 一般病院 (急性期) (13 : 1)			

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院 (センター)
- ②救命救急センター (三次)
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院 (在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院)
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中 (急性期)・(回復期)・(維持期) を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞 (急性期)・(回復期) を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>○救急患者等の受入をはじめ、急性期機能を担う病院として医療を提供</li> <li>○地域の病院・医院と連携（オープンベッドを含め）</li> <li>○在宅療養あんしん病院に登録し、在宅療養中の高齢者が体調を崩したときに、スムーズに病院で受診し、必要に応じて入院ができるよう体制整備を図っている。</li> </ul>
自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○急性期から慢性期に移行した患者さん（特に独居）の退院支援に苦戦しており、医療療養病院、介護療養施設在宅療養支援病院、地域包括の連携が必要である</li> </ul>
地域において今後担う役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○整形外科専門病院として、手術を合わせ早期社会復帰を目指した医療を提供</li> <li>○当院では専門外の急性疾患においては他院との連携を密に行う</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○整形外科病院として機能の構築を行う</li> <li>○デイサービス、訪問リハビリを行い在宅支援を行う</li> </ul>

# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	三菱京都病院			
所在地	京都市西京区桂御所町1			
許可病床数	188床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 188床 (0床)	医療療養 0床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 （上位3つ）	循環器	周産期	消化器	
病床機能	高度急性期 14床	急性期 127床	回復期 47床	慢性期 0床
主な病院機能	周産期医療二次病院（地域周産期母子医療センター） 救急告示病院 京都府がん診療推進病院 急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院 緩和ケアを担う病院 慢性維持透析を担う病院 人間ドック事業			

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○循環器・周産期・がん医療を中心に高度急性期医療を担っている。 (救急告示・輪番制病院(二次))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期心血管疾患の外科的治療にも即応する心臓血管外科</li> <li>・急性期後の心臓リハビリテーションを含む包括的心血管専門医療に対応する循環器部門</li> <li>・PET-CT 検査等高度な放射線診断を含むがん検診・がん診断に対応</li> <li>・胆肝膵の高難易度手術にも対応する消化器外科</li> <li>・婦人科がん・乳がんなど女性特有のがんに対する専門的な対応(婦人科・乳腺外科)</li> <li>・臨床宗教師によるスピリチュアル・ケアを含む包括的な緩和医療に取り組む緩和ケア病棟</li> <li>・NICU(新生児集中治療室)を整備し地域内の産科医療機関と連携しハイリスク分娩に対応する周産期部門</li> <li>・歯科医師会(歯科診療所)と密接な連携体制を有する口腔外科(常勤)</li> <li>・合併症を有する幅広い整形外科疾患に対応する整形外科</li> <li>・地域の維持透析患者の様々な合併症に対応する血液浄化部門(維持透析を含む)</li> </ul> <p>○在宅療養あんしん病院への登録、地域包括ケア病棟の設置、地域医療連携室の機能強化により、いわゆる「回復期機能」についても対応を図っている。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○急性期中規模病院として、引き続き、循環器、周産期、がん医療を中心に機能の強化・充実を図り、地域医療を支える役割を担うとともに、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を核に今後地域の要請が高まることが見込まれる病院機能の充実により地域包括ケアシステムにおける役割を果たしていく。</p> <p>○病院規模に鑑み、脳血管疾患、精神疾患、回復期リハビリテーション、循環器・周産期以外の救急対応等については近隣の医療機関と適切な連携を図ることにより対応を図る。</p> <p>○在宅医療については、現在終末期患者に対し限定的に行っている訪問看護の充実等を通じて、病院としてのサポート機能の強化を図る。</p>

<p>地域において今後担 う役割</p>	<p>○地域包括ケアシステムの構築に向け、当院が率先して地域医療連携の推進に取組、介護・福祉施設等とも連携強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着促進(訪問看護強化)</li> <li>・循環器・周産期・がん医療を中心とした高度専門医療の提供</li> <li>・高齢者等幅広いニーズへの対応(地域包括ケア病棟)</li> <li>・予防健診の強化(人間ドックの継続)</li> <li>・在宅支援機能の強化(サブアキュート患者の受け入れ態勢)</li> <li>・西京区唯一の口腔外科としての役割(医科歯科連携等)</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<p>○一部急性期病棟を地域包括ケア病棟(33床)に転換し(2018年9月～)、地域医療ニーズの変化に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護体制の充実</li> <li>・在宅医療患者の看取りの支援(緊急入院の対応等サブアキュート機能の充実)</li> </ul> <p>○ガン及び慢性心不全などの非ガンの緩和医療への取り組み強化</p> <p>○高度急性期医療分野の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器・周産期消化器部門の24時間対応</li> <li>・心臓血管外科を主としたドクターカーの運用</li> <li>・産婦人科・乳腺外科など女性医療の充実</li> <li>・遺伝検査・遺伝カウンセリング</li> <li>・外来手術の拡大の検討</li> </ul> <p>○高齢化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低侵襲の手術の拡大(体腔鏡手術、内視鏡手術、TAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術:2018年7月～実施)等を含むカテーテル手術)</li> <li>・整形外科(大腿骨・脊椎)、眼科(白内障)診療の充実</li> <li>・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を含む高齢者に対する最適な医療支援</li> </ul>





## 病院の役割と今後について

### 【基本情報】

病院名	医療法人清仁会洛西ニュータウン病院			
所在地	京都市西京区大枝東新林町3丁目6番地			
許可病床数	184床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 138床 (0床)	医療療養 46床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	循環器内科	外科	
病床機能	高度急性期 0床	急性期 108床	回復期 30床	慢性期 46床
主な病院機能	③救急告示病院 ⑨脳卒中（維持期）を担う病院 ⑩急性心筋梗塞（急性期）（回復期）を担う病院			

#### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2 病棟 108 床の急性期病棟を有し、二次救急として地域の救急ニーズに貢献（輪番制度にも参加）</li> <li>○回復期機能を持つ地域包括ケア病棟と慢性期機能を持つ医療療養病棟を有し、ケアミックスの医療を提供</li> <li>○自院内で通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを実施しており、また、法人グループの訪問看護ステーションも合築している。在宅療養まで見据えた医療介護の一体運営を心がけている。</li> </ul>
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅療養あんしん病院に登録しており、また、地域包括ケア病棟ではレスパイト入院も受け入れているものの、それらの利用が伸び悩んでいる。</li> <li>○近隣の開業医の先生方との連携は、強化していく余地があると感じている。</li> </ul>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○洛西ニュータウン及びその周辺では、グループ病院である洛西シミズ病院があるが、整形外科に特化した洛西シミズ病院と異なり、当院は外科系各科及び内科系各科から病院歯科まで多様な診療科群を有していることから、地域の中核病院を自負している。この強みを活かして地域医療に貢献するために、院内でのケアミックスにとどまらず、訪問診療も含めた在宅療養支援を推進していく。</p>

今後の展望	<p>○昨年11月に一般病床から5床を医療療養病床に転換済み。今後も洛西ニュータウン地域の医療ニーズの変化に応じて、体制の見直しを行っていく。</p> <p>○法人グループの2病院が近隣にあることから、その役割分担も踏まえた体制の見直し。</p>
-------	---



## 病院の役割と今後について

### 【基本情報】

病院名	公益社団法人京都保健会京都民医連中央病院			
所在地	京都市中京区西ノ京春日町16番地の1			
許可病床数	411床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 359床 （0床）	医療療養 52床 （0床）	介護療養 0床 （0床）	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	整形外科	外科	
病床機能	高度急性期 17床	急性期 274床	回復期 120床	慢性期 0床
主な病院機能	救急告示病院、京都市病院群輪番制病院（小児科含む）、 京都府がん診療推進病院、脳卒中（回復期・維持期）を担う病院、急性 心筋梗塞（回復期）を担う病院、回復期リハビリテーション病棟を有す る医療機関、ロボットリハビリテーション導入施設、大腿骨頸部骨折地 域連携パス計画管理病院、在宅療養後方支援病院、在宅療養あんしん病 院、管理型臨床研修病院			

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>京都市西北部に位置する、急性期型の教育病院としての役割を長年に亘って担ってきた。がん診療については消化器内科、消化器外科を中心に手術医療から化学療法、緩和ケアまで集学的な管理を提供している。脳卒中診療は回復期を主に担う病院としてリハビリテーション機能に重点を置いている。心筋梗塞についてはカテーテルインターベンションに加えて、急性期後の心大血管リハビリテーションの提供を行っている。糖尿病診療は腎臓領域から、糖尿病性腎症予防のプログラムを実践し、教育入院なども広く受け入れている。精神科診療では、認知症ケアチーム、精神科リエゾンチームが中心となって活動している。</p> <p>救急医療に重点を置き、断らない救急を目指して受け入れ数を伸ばし、地域の二次救急医療を支えている。周産期診療は、妊産婦の管理においてハイリスク妊娠の受け入れ、新生児に関しては後期早産児の管理や成熟児の呼吸障害に対応している。小児医療は、京都市救急病院群輪番制に参加している。</p> <p>病院方針として、地域のヘルスプロモーションを推進することを掲げ、健康教育はもとより、健康の社会的要因に積極的に介入している。また、室料差額は取らず、無料・低額診療を通じて受療権を保障する活動を行っている。また、京大社会健康医学との共同研究を通じて、これらの活動のアウトカムの測定とこれからの人材育成に取り組んでいる。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>2019年11月を開院予定として、現在、新病院を右京区南太秦に建設中である。新病院のコンセプトを「(全ての人々に)なくてはならない病院」と定め、整備をすすめている。</p> <p>地区医師会をまたいだ移転であり、地域の医療機関との連携を飛躍的に高めることが求められ、紹介、逆紹介を通じた関係作りをすすめることが求められる。</p> <p>連携の中心となる、急性期機能の拡充は重要であり、救急機能と専門的医療の双方での人員体制の確保に努力している。また、広域を対象とした高度先端医療ではなく、総合的な医療の質を向上させ、地域における急性期機能を十分に担える力量を、今以上に高めることが必要である。</p> <p>新病院は立地的には、広域災害時の地域医療を支える役割があり、ライフライン途絶時においても必要な医療を提供できるインフラ整備を行う。</p>

<p>地域において今後担 う役割</p>	<p>自施設の課題に取り組んだ結果として、右京区における地域医療支援病院になることが、当院の担うべき中心的役割であると考えている。</p> <p>現在、右京区には急性期医療を提供できる病床が他の行政区に比して少なく、当院が急性期医療を名実ともに地域包括ケアの支援に提供することが重要である。また、ヘルスプロモーションを推進する拠点としての役割は、医療の提供のみではなく、右京区のまちづくりを推進する一役を担えると考えます。</p> <p>災害対応については、災害時に、急性期医療の提供を継続して行えること、さらには地域住民の安全と生活が確保できる役割を担えることを目指して新病院のインフラを整備する予定である。また、専門領域では、京都市の透析医療を支えられるように、ライフライン途絶時においても20床程度の透析ベッドを昼夜稼働することを予定している。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>新築移転時に、高度急性期機能(HCU)を現在の17床から12床に減床するが、がん診療におけるニーズから、緩和ケア病棟を14床から21床へ増床する。</p> <p>現在、大学との連携でいくつかの科(泌尿器科、耳鼻科、口腔外科)の医師常勤化・複数化と入院医療の提供の開始に向けて具体的に調整を進めている。大学病院、その他の拠点病院が京都市の東に偏在している中で、右京区南太秦では、こうした専門分野の領域で一定の拠点病院としての機能を担うことができると考えている。その他、皮膚科、眼科等についても医師の常勤化・複数化に向け努力している。</p> <p>糖尿病領域では、2019年度に専門医・指導医の招聘を予定しており、地域完結型の糖尿病診療の提供が可能となると同時に、様々なデータの活用を通じてアウトカムを測定し、エビデンスの創出に務めていく。</p>





## 【Bブロック】第2回ブロック会議発表資料

病院名	ページ番号
西京医師会	1
京都府訪問看護ステーション協議会	2
京都府介護支援専門員会	3 ~ 4



## 各団体の在宅療養等に係る役割と今後期待すること

団体名	一般社団法人西京医師会
在宅療養等に係る役割	地区医師会として、会員の診療所における在宅医療に対する取り組みを広め、薄くても広く地域での在宅療養を支えることができるように旗振り役を担う
在宅療養等に係る取り組みの現状と課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体として 地域資源の把握や各種連携については以前より取り組んでおり、病院に対する研修会に加え診療所対象の研修会も開催するなどしている。</li> <li>・個別施設として</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体として 医師会内での浸透が遅々として進まない。連携を図るため開催する会の出席者の多くは他職種で、医師会からの出席者はいつも限られている。</li> <li>・個別施設として</li> </ul>
病院との連携における課題について	それぞれの病院のありようが異なるため、それを把握しておく必要がある。
在宅療養等に対する各団体、病院等に期待すること	<p>&lt;団体&gt;</p> <p>往来がスムーズであること</p> <p>&lt;病院&gt;</p>



## 各団体の在宅療養等に係る役割と今後期待すること

団体名	一般社団法人 京都府訪問看護ステーション協議会
在宅療養等に係る役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムにおいて、高い医療ニーズ、看取りケア、小児等の医療看護の専門性を必要とする在宅療養者のサポート</li> <li>・他職種協働による在宅療養生活支援、より良いケアの追求</li> <li>・患者と医師、医療と看護(病院と在宅)の橋渡し</li> <li>・介護者・支援者への支援・指導</li> </ul>
在宅療養等に係る取り組みの現状と課題	<p>【現状】協議会入会ステーション168(府下全体280) A:32(H30年11月現在) 開設者:会社 46.5% 医療法人 28.4% 社会福祉法人 8.4% 保健所圏域:京都市 60.9% 山城北 14.4% その他約 24.7%。新規事業所も増加しているが同時に廃止事業所も多い。事業所により得意分野がある。(ホームページ参照)在宅医療のニーズは増大しており、訪問看護師は不足。現状 1300人、年間約 50人増加。(平成30年度訪問看護実態調査より)</p> <p>【団体としての取り組み】京都府基金事業:多職種連携推進事業及び在宅緩和ケア・看取りケア充実事業。①地域における医療・介護の切れ目のない支援を行う人材育成及び他職種連携推進のための訪問看護ステーションにおける現場(同行訪問)研修の実施。②在宅緩和ケア・看取りケア、医療ニーズの高い療養者へのケアを担う訪問看護師の質の向上、充実を図る研修の実施。③小児訪問看護普及のための研修実施。④事務効率化による訪問看護人材確保事業。⑤新人訪問看護師及び管理者の定着支援(個別OJT:看護協会協力事業)⑥京都市消防局との火災予防に係る協定締結のもと防災活動を実施。⑦地域包括ケア推進機構交付金:地域における医療介護協働在宅看取りケア研修事業の実施。(京田辺市・右京区・西京区)</p> <p>&lt;個別施設として&gt;</p> <p>・【課題】</p> <p>&lt; 団体として &gt;看護サービスの質の向上、管理者育成、人材確保・定着、看護業界から選ばれる訪問看護へ。</p> <p>&lt;個別施設として&gt;</p>
病院との連携における課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期からの訪問看護の関りによる退院支援</li> <li>・連絡方法の明確化(指示書への連絡方法の明記)、相談窓口の明確化</li> <li>・病診連携(在宅かかりつけ医へ)</li> </ul>
在宅療養等に対する各団体、病院等に期待すること	<p>【団体】各職種の役割・機能を把握し、役割分担・協働してより良い在宅療養生活の支援ができる。</p> <p>【病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病診連携:往診可能な在宅医へ繋げてほしい。(死亡診断・確認)</li> <li>・必要な衛生材料の提供:在宅患者訪問薬剤管理指導・衛生材料等訪問看護指示書のある患者:衛生材料管理加算 訪問看護指示書300点指示書切手代</li> </ul>



## 各団体の在宅療養等に係る役割と今後期待すること

団体名	公益社団法人京都府介護支援専門員会
在宅療養等に係る役割	<p>介護支援専門員（以下、「ケアマネジャー」）は、利用者の在宅での生活を支えるため、自立と尊厳の保持を理念として、利用者本人や家族、多職種との連携を図りながらケアマネジメントを行っている。特に最近では、多職種連携の中でもケアマネジャーが「医療と介護」又は「病院と在宅」をつなぐ要（かなめ）としての役割を担うことが強く求められるようになってきている。</p>
在宅療養等に係る取り組みの現状と課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>平成30年12月10日現在で会員数1797名のケアマネジャーの職能団体である。在宅療養等の推進に資するため多職種連携をテーマとした研修会の企画・実施、府・市町村、関係団体等が主催する会議・委員会等に参画している。</p> <p>また、介護支援専門員の資格更新に係る研修（全国で統一されたカリキュラムで「看取り」「入退院に関する事例」等について学ぶ）を受託する等して、介護支援専門員の資質向上に努めている。</p> <p>京都府全体で実施されている在宅療養コーディネーターの養成研修へ当会から推薦している。行政区によっては、区内の在宅療養コーディネーターが集まり、在宅療養を推進するための多職種が参加する研修会等を実施しているところもある。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>「医療と介護」又は「病院と在宅」をつなぐ要としての役割期待が益々大きくなっている一方で、ケアマネジャーが誕生した当時とは違い基礎資格が福祉系のケアマネジャーが大半を占めるようになってきている。医療依存度の高い利用者の在宅療養が日常的になってきている中で、医療的な知識・技術・経験に乏しいケアマネジャーが連携の要としての役割を果たすことが困難な場面も見られる。</p> <p>ケアマネジャー側も、苦手意識から医療職との連携が不十分なままで利用者への支援が行われている点も課題であると考えている。</p>



<p>病院との連携における課題について</p>	<p>医療相談室や地域連携室などを設置し、連携の窓口を明確化している病院が増えてきている。一方で、中小規模の病院では窓口が不明確であったり、複数の窓口部署が存在していたり、役割分担の周知が不足しているなどの課題もある。行政区レベルの連絡会で、入退院時の担当窓口の一覧表を作成しているところもある。</p> <p>居宅介護支援事業所のケアマネジャーの場合、退院時に病院と連携をすることで加算を算定することができるが、今回の報酬改定でカンファレンスあたりが高く評価されたが、カンファレンスが退院時共同指導料 2 の多機関共同指導加算（3 者以上）と規定されていることにより加算算定が困難な場合が多い。（加算目的ではなく、病院と在宅との連携強化・情報共有に資するカンファレンスに積極的に取り組んでいきたい。）</p> <p>制度としては、入退院時における病院との連携を推進しているが、まだまだ双方の役割が理解されていない現状である。ケアマネジャーから見れば病院は入院時の情報は必要としているが、退院に向けての情報提供や、在宅療養に向けた生活調整にはあまり力が注がれていないように感じる。</p> <p>京都市が医療・介護をはじめとする多職種の連携と高齢者の在宅生活を支援する取組の推進を図るため、地域に「在宅医療・介護連携支援センター」を設置されている。このセンターの機能・役割の一つとして有機的な連携構築ができればと考える。</p>
<p>在宅療養等に対する各団体、病院等に期待すること</p>	<p>実際に入退院をする際に必要に迫られ連携をするのではなく、平常時の連携の積み重ねが最も重要であると考えている。最近では地域連携室発信等で在宅関係者を対象とした研修会等開催してもらっているが、引き続き参加しやすい形態での開催をお願いしたい。</p> <p>また、地域の研修会等になかなか参加されない（できない）病院・医院・介護保険サービス事業者（地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を含む）に対しては、各団体において情報伝達ができる仕組みの構築を期待したい。</p>